情報アクセスシステム

第8回 リンク解析その2 Topic-sensitive PageRank, HITS

兵庫県立大学

情報科学研究科/社会情報科学部

山本 岳洋

t.yamamoto@sis.u-hyogo.ac.jp

2021年度前期・水曜2限 社会情報科学部

この資料の内容

● 各種リンク解析アルゴリズム

- Topic-sensitive PageRank
 (Biased PageRank, Personalized PageRank)
- HITSアルゴリズム

Topic-sensitive PageRank

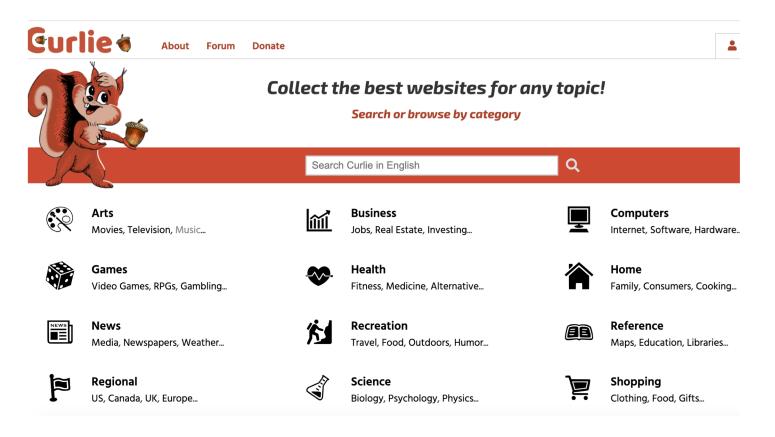
(Biased PageRank, Personalized PageRank)

Topic-Sensitive PageRank

- アイデア: トピックに依存したPageRank値計算
 - トピック:
 - ビジネス、健康、コンピュータ、スポーツなど ODP (Open Directory Project) の上位16カテゴリ
 - 例: スポーツ分野におけるPageRank値を求めたい

Open Directory Project

人手により収集・カテゴリ分類されたウェブディレクトリ



https://curlie.org/en

Topic-Sensitive PageRank (Biased PageRank, Personalized PageRank)

アイデア:テレポーテーションを偏らせる

$$\mathcal{C} = \{c_1, c_2, ..., c_m\}$$
 ODPのトピック集合 $\mathcal{T} = \{T_1, T_2, ..., T_m\}$ T_j はトピック c_j に所属するページ集合

トピック c_j に対するPageRank値ベクトルを $oldsymbol{p}_j = \left(p_{j1}, p_{j2}, ..., p_{jn}\right)^T$ とすると

Topic-Sensitive PageRankアルゴリズム

$$\boldsymbol{p}_j = d\boldsymbol{A}^T \boldsymbol{p}_j + (1-d)\boldsymbol{v}_j \qquad v_{ji}$$

$$v_{ji} = \begin{cases} \frac{1}{|T_j|} & i \in T_j \\ 0 & i \notin T_j \end{cases}$$

偏ったテレポーテーションに基づくPageRankアルゴリズムを Biased PageRank, Personalized PageRankと呼ぶこともある

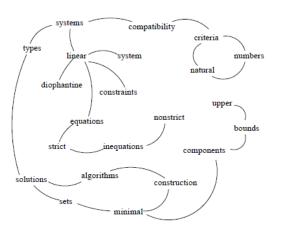
Topic-Sensitive PageRank (Biased PageRank)の直感的な理解

- シードページ集合 T_j から出発したランダムサーファー が確率 d で閲覧中のページのリンクを辿り、確率 (1-d)でシードページ集合のいずれかに戻る
 - 参考: 戻るページが1つだけだと,Random walk with Restartとも呼ばれる
- ノードに対する「事前に分かっている重要度」を リンクを通じて伝播しているとも解釈できる
 - たとえば、 v_j を個人のブックマークから用意すれば、 パーソナライズされたページの重要性が計算できる

参考: テキストや画像に対する PageRankベースのアルゴリズム

TextRank, LexRank

- 多くの重要な文(単語)と類似する文(単語)は重要
- 文書要約、文書からの重要キーワード発見に利用



Keywords assigned by TextRank:

linear constraints; linear diophantine equations; natural numbers; nonstrict

inequations; strict inequations; upper bounds Keywords assigned by human annotators:

linear constraints; linear diophantine equations; minimal generating sets; nonstrict inequations; set of natural numbers; strict inequations; upper bounds

$$\boldsymbol{p} = d\boldsymbol{S}^T \boldsymbol{p} + (1 - d) \frac{1}{n} \boldsymbol{e}$$

 $S_{ij} = \frac{1}{Z} sim(i,j)$ sim(i,j): 文や単語間の類似度や共起度 Z: 確率行列にするための定数項

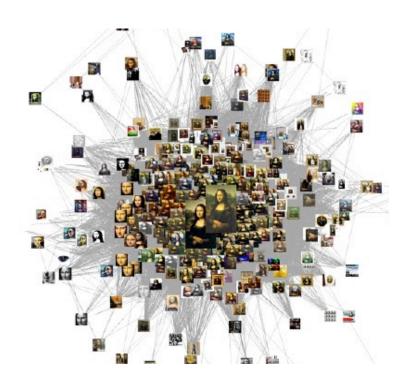
図の出典: R. Mihalcea, P. Tarau: TextRank: Bringing Order into Text, EMNLP2004, pp. 404-411.

G. Erkan, D. R. Radev: LexRank: Graph-based Lexical Centrality as Salience in Text Summarization, Journal of artificial intelligence research, 22, pp. 457-479, 2004.

参考: テキストや画像に対する PageRankベースのアルゴリズム

VisualRank

- 多くの重要な画像と類似する画像は重要
- 画像の典型性評価に利用



$$\boldsymbol{p} = d\boldsymbol{S}^T \boldsymbol{p} + (1 - d) \frac{1}{n} \boldsymbol{e}$$

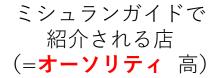
$$S_{ij} = \frac{1}{Z} sim(i,j)$$
 $sim(i,j)$: 画像 i,j 間の類似度 Z : 確率行列にするための定数項

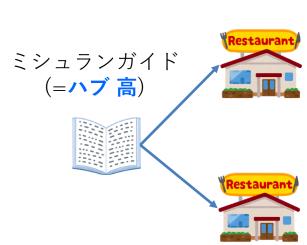
HITSアルゴリズム

HITSアルゴリズム

(Hypertext Induced Topic Search)

- 目的: Webコミュニティ発見
 - あるトピックに関して、Web上の(隠された)コミュニティをリンク構造から発見したい
 - 具体的には、優れたオーソリティとハブを発見したい
- オーソリティ(Authority)
 - 多くの(重要な)ハブからリンクされている重要なページ
- ハブ (Hub)
 - 多くの(重要な)オーソリティに リンクしている重要なページ
- ハブとオーソリティは相互再帰的な関係





J. Kleinberg. Authoritative Sources in a Hyperlinked Environment. In Proc. of the 9th ACM SIAM Symposium on Discrete Algorithms (SODA'98), pp. 668–677, 1998.

HITSアルゴリズム

有向グラフ: G = (V, E) ※ 元論文ではここでの V はクエリ に依存した集合だが、この講義では扱わない

ページiのオーソリティ値を a_i 、ハブ値を h_i とすると、

$$\begin{cases} a_i = \sum_{(j,i) \in E} h_j \\ h_i = \sum_{(i,j) \in E} a_j \end{cases}$$

※HITSはマルコフ連鎖ではないので注意

式(4)の別表現

隣接行列(Adjacency matrix): $L: n \times n$ 行列

$$L_{ij} = \begin{cases} 1 & \text{if } (i,j) \in E \\ 0 & \text{otherwise} \end{cases}$$

オーソリティ値ベクトル $\mathbf{a} = (a_1, a_2, ..., a_n)^T$, ハブ値ベクトル $\mathbf{h} = (h_1, h_2, ..., h_n)^T$ とおくと,

$$\begin{cases} \mathbf{a} = L^T L \mathbf{a} \\ \mathbf{h} = L L^T \mathbf{h} \end{cases}$$

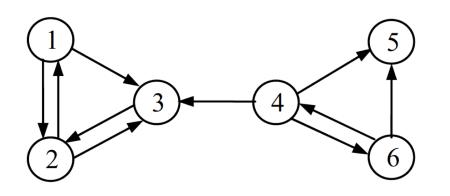
べき乗法に基づくHITSアルゴリズム

べき乗法に基づくHITSアルゴリズム

```
input: 隣接行列 L
output: オーソリティ値ベクトル a
                  ハブ値ベクトル h
 a^{(0)} \leftarrow h^{(0)} \leftarrow (1,1,...,1)^T
 k \leftarrow 1
repeat
       \boldsymbol{a}^{(k)} = L^T L \boldsymbol{a}^{(k-1)}
       \mathbf{h}^{(k)} = LL^T \mathbf{h}^{(k-1)}
       a^{(k)} \leftarrow a^{(k)} / \|a^{(k)}\|_{1} //正規化
       \boldsymbol{h}^{(k)} \leftarrow \boldsymbol{h}^{(k)} / \|\boldsymbol{h}^{(k)}\|_{1} / \mathbb{E} //正規化
        k \leftarrow k + 1
until \|\boldsymbol{a}^{(k)} - \boldsymbol{a}^{(k-1)}\|_{1} < \varepsilon_{a}
                   and \|\boldsymbol{h}^{(k)} - \boldsymbol{h}^{(k-1)}\|_1 < \varepsilon_a
 return a_k and h_k
```

常に収束するが、初期値の 与え方によっては異なる ベクトルに収束する場合もある (LL^T の性質による)

参考: 前回の講義資料の例に対して HITSを適用してみる



networkxのhits()で 簡単に求められる

hub, authority = nx.hits(G)

Authority

[(3, 0.35), (5, 0.21), (6, 0.15), (2, 0.13), (1, 0.10), (4, 0.06)]

Hub

[(4, 0.35), (1, 0.24), (2, 0.22), (6, 0.13), (3, 0.06), (5, 0.00)]

参考

- HITSがコミュニティ発見と言われる理由
 - HITSはグラフ中の最も密に繋がっている 部分グラフにおけるオーソリティ, ハブを求めている

- 参考: 関連する技術
 - SALSA
 - HITSのマルコフ連鎖版
 - Co-HITS
 - 2部グラフ上での一般的な ランダムウォークアルゴリズム

HITSの欠点

● 耐スパム性

- 出リンクを操作するのは容易なため、 ハブ値を簡単に操作できる
- 結果的にオーソリティ値も操作できてしまう

この資料のまとめ

● 各種リンク解析アルゴリズム

- Topic-sensitive PageRank
 (Biased PageRank, Personalized PageRank)
 - 偏ったテレポーテーションをかける = 一定確率で特定のノードに戻る
- HITS
 - ハブとオーソリティの考え方
 - 隣接行列を用いてハブとオーソリティを どのように定式化できるか?